

コンセプチュアル・アーティストのアラン・ブラックウェルによるスケッチ展『ウォーキング・マシーン』が、ジュネーヴの **MB&F M.A.D.Gallery** で行われています。

アラン・ブラックウェルのデザインは、『トランスフォーマー』や『スターウォーズ』からのインスピレーションを発端とした創意溢れるイマジネーションで異彩を放っています。コンセプチュアル・アーティストとして、紙とペン、もしくは鉛筆だけで命を吹き込まれた見事な SF マシンを創り出すブラックウェル。こうした並外れた想像力こそが、彼の製作の鍵となるのです。

幼少期のブラックウェルは、SF を好みました。「スター・デストロイヤー」や「メガトロン」の魅力は抗いがたいものでした。そしてスケッチの才能もありました。しかし資力には恵まれず、インターネット時代以前には、彼の教材は風変わりな馬をいかに描くかを紹介した図書館の書籍のみでした。こうした教材は、かけ離れた何か -たとえば宇宙船のようなもの- をデザインしたくても、それほど役に立ちません！

「アーティストになりたかったので、それに集中しよう決めました。」とオーストラリア人のブラックウェルは語ります。「できる限り多く作図やスケッチに時間を割きましたが、下手なものでした。自分の技能をどのようにして向上させることができるかに没頭したくても、何もなかったのです。」

ブラックウェルは描くことへの渴望から、そばにあったものに手当たり次第スケッチしました。ノートや学校の教科書がほとんどでしたが、そうした材料は、彼の独創的な落書きのような作風を生み出す変幻自在な訓練の場となったのです。

「進級して新しい教科書を手にするたびに、表紙にかっこいい車を描いていました。」とブラックウェルは言います。「でも最初の頃の経験から、一度としてアートの分野でキャリアを積むという選択肢や可能性には思い至りませんでした。私にそれを勧めたり、背中を押してくれるような人もいませんでした。」

インターネットのおかげで、ブラックウェルは偶然コンセプト・アートに出会いました。アーティストたちが、ロボット、工作機械、工業アイテムなどを含む、自分たちの「コンセプト」を定期的に発表しているウェブサイトを巡り合ったのです。これは、彼のペンによる創作を苦勞して製品化せずとも、製作活動を続け、作品を共有するモチベーションとなりました。ブラックウェルはついに、彼のよりどころを見つけたのです。

## 進め、ロボット！

ブラックウェル曰く、「風変わりなロボットを描くことが、とても好きなだけです」「ロボットを描いていると落ち着きます。他のジャンルも好きですが、常にロボットに戻って来ます。」

ブラックウェルのロボットはくつろいだ雰囲気を持ち、映画に出てくるような現代的なロボットの多くに見られるいかめしさや威圧感はありません。彼を連れ出して、一緒に良い時間を過ごせるようなフレンドリーなロボットです。勘定を払わないと言ってあなたの頭を打ちぬくような輩ではありません。

このオーストラリア南部出身のアーティストは、彼が描くロボットのようにおおらかな雰囲気を漂わせています。

「何を描こうか手掛かりのない時はほとんど、自分のペンが進む方向だけ見えています」と、ブラックウェルは言います。

## 詳細お問い合わせ:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

メール: [jd@mbandf.com](mailto:jd@mbandf.com) 電話: +41 22 508 10 36.

「手掛かりゼロ」ということは、彼の仕事にいつそうの自由をもたらします。ブラックウェルの創作プロセスは、紙に描くひとつのアイデアを得るための「複雑な線描」で始まります。これら粗描のひとつが心に留まったら、少し微調整を加え、鉛筆からインクに変えて描画を仕上げます。

「形は徐々にシンプルになる傾向にあります。大きな形状にほんの少しスパイスを加える小さめのディテール。最初のスケッチはインクで残して、生かしておきます。」とブラックウェルは説明します。

ブラックウェルの芸術的手腕とディテールへの配慮によって、ロボットの外観も面白いものとなります。彼の想像による「ロボコーン (Robocorns)」や「スキッドクルーザー (Squid Cruisers)」は、ロボットは人造人間というよりも、傍に置ける身近な友達であるような未来を表現しています。それらの形は、見たこともないようなビジョンでミックスさせた俗世の物や獣のようなもの、そして家の周囲にあるようなものなどが雑多に入り混じっています。

技術的に入り組んだ分解ダイアグラムで、展示作品の中で最も制作が難しい作品のうちの一つである、彼のお気に入りのスケッチ「フランク・ボット (FrankBot)」も注目に値します。

ブラックウェルは、彼の芸術によって人々を未来的な世界へと誘うことを願っています。そこでは大人の心に想像力とファンタジーがそっと入り込み、ひと時だけ、大人たちの傍らにロボットと宇宙船がいると思わせてくれるのです。これこそまさに、M.A.D.Gallery で私たちが広めていきたいメッセージです。

アラン・ブラックウェルのペン / ペンシルで紙に描いたスケッチ 33 点は、M.A.D.Gallery で入手できます。  
3 サイズで展開：40x50、30x40 及び 21x29.7 cm。

## アラン・ブラックウェル略歴

オーストラリア人のアラン・ブラックウェルは、フリーランスのコンセプチュアル・アーティスト及びイラストレーター。

1981年、オーストラリア南部アデレード生まれ。『スターウォーズ』『トランスフォーマー』やプラモデル組み立てなどへの愛着が、紙や教科書といったものに描くイラストや描画への嗜好につながりました。

高校は卒業しませんでした。度重なるチャンスに恵まれスキルを磨きました。最初は、大学の課程で工業デザインを学べたこと。そして、後に彼の妻となり大きな支えとなる美しい女性との出会ったことです。

ブラックウェルは生活の糧を得るアート制作のために、ついに世界を横断してカナダへと向かい、「DeNa Studios」でコンセプチュアル・アーティストとしての職を得ました。

この謙虚なアーティストは現在オーストラリアに戻り、自身のイマジネーションが生み出す作品の限界に挑戦しながら、イラストレーターとしての活動を続けています。描くことへの本能的衝動を保ちつつ、音楽を演奏したり、アイスホッケーを楽しむ時間も見つけています。

## 詳細お問い合わせ:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

メール: [jd@mbandf.com](mailto:jd@mbandf.com) 電話: +41 22 508 10 36.